



* 明けまして おめでとうございます！ *

～新年のご挨拶～

乳がん体験者の会
りんりんの会

平成 29 年が穏やかに幕開けとなりました。皆様、どのようなお正月をお過ごしでしょうか？
 昨年の「りんりんの会」は、4月の Dr.吉田の乳がん講座での『サバイバーシップとは？』というタイトルでの講演、そして10月の研修会での「アピ アラソケア」についての講話と実践、また、若年層の患者様対象の情報交換会（“こころん”）開催の継続など、充実した一年を過ごすことが出来ました。今年で12年目を迎える「りんりん」ですが、これまで長年継続できていること、応援してくださる方々が変わらずにそばにいてくださること、そして、少しずつ輪が広がって来ていることがとても嬉しく、これも一重に会員の皆様方や医療スタッフの方々のご支援のおかげと感謝しております。

“気軽に立ち寄れる”、“安心して相談できる”、“温かい雰囲気がある”、りんりんはいつでもそんな場所でありたい！と願っています。皆さんの温かいエールが原動力になります。今年も「りんりん」へのご支援をどうぞよろしくお願い致します。

さて、今年は何年なので・・・

イロ鳥ドリな幸せが皆さんに訪れる一年でありますように！

そして、羽ばたく一年になりますように！



～ひとりじゃないよ！仲間がいるよ！～

* 凛(りん・自分の為に!)・輪(りん・仲間の為に!)・鈴(りん・社会の為に!) *

* りんりん定例会 H29.1月～3月の予定 *

● 1月28日(土) 10:00～11:30

※ 開催場所:大崎市民病院 9階会議室

※ 参加費 500円(飲み物は各自持参になります)

★『がん患者様のためのメーキャップセミナー』

講師:須藤祐子氏・玉野章浩氏(資生堂ビューティーコンサルタント)

★参加対象:がん患者様・医療関係者(女性限定)

★肌のお手入れ(正しいスキンケア)やメイクのコツ(肌色の変化のカバー方法、目元・口元・頬の印象アップなど)を教えてもらい、一緒に実践してみる講座です。

(※1/31申込み締切・20名限定 先着順になります。)

● 2月18日(土) 10:00～11:30

※ 開催場所:大崎市民病院 9階会議室

※ 参加費:300円(飲み物は各自持参になります)

★『第5回 CoCoRin(こころん)情報交換会』

★20代・30代・40代までの若年層の患者様の集い

★治療のこと、仕事のこと、出産や子育て、パートナーのこと・・・。同年代の方と一緒に、悩みや不安をお話してみませんか？個人情報はお守りします。

RinRin(りんりん)先輩体験者がお手伝いします。

※申込不要・大崎市民病院以外の方も参加可能

● 2月25日(土)～26日(日)「りんりん温泉に入ろう会」

※ 鳴子温泉「鳴子観光ホテル」・参加費:15,000円

★『なるこ温泉 ♥ ほっこりりんりん 冬の旅。』

みんなで一緒に温泉に入り、いっぱい食べていっぱいしゃべって、日頃のストレスを発散し、ゆっくりと、こころもカラダもあたたまって来ませんか？(貸し切り風呂もありますよ～!) ※申込み必要

★現地集合(15:00)又は古川から電車移動になります。

● 3月18日(土) 9:30～11:30

※ 開催場所:大崎市民病院 3階会議室

※ 参加費:300円(飲み物は各自持参になります)

★『りんりん定例茶話会』(情報交換会・相談会)

*年代や治療内容等に関わらず、同じ病気の体験者として一緒にお話ししましょう。(大崎市民病院以外の方も参加可能。) 初めの方も気兼ねなくご参加ください。

◀ H28.12/27(水)・大崎タイムスに掲載された記事について ▶

- * 2月に予定している「温泉に入ろう会」の参加募集について掲載されましたが、記載内容にデリカシーに欠ける表現が見られ、それに関し不快に感じられた患者様からお問い合わせをいただきました。
- * この記事に関して確認したところ、市民病院 HP から引用したものとすることで、りんりんの会や病院の承諾(確認)無く、無断で掲載されたものと言うことが発覚しました。不的確な表現により、患者会などに不安を抱いた方がおられましたら、大変申し訳ありませんでしたが、誤解の無いように、敢えて真実を会報に記載させていただきました。
- * 今後、今回のような情報やお気づきのことなどありましたら、会の方に遠慮なくご連絡ください。よろしくお願い致します。

明けましておめでとうございます。
本年もよろしく願います。



病理検査

大崎市民病院 乳腺外科科長 吉田 龍一

病理検査、病理診断とはどういうものかご存じでしょうか。

病理検査とは、疾病の診断を行うために、患者から手術または検査の目的で採取された臓器、組織、細胞などを対象に、顕微鏡等を用いて詳しい診断を行うことです。ここでいう細胞とは身体を構成する最小単位といってもいいかも知れません（実際には分子レベルの構造物も明らかになっています）。その細胞が集まってできたものが組織、組織の集まりが臓器です。たとえば、一個一個のレンガが「細胞」で、そのレンガで作られた壁が「組織」で、そのレンガの壁を用いて造られた家が「臓器」といえるでしょう。

乳がんの診断では、最初にしごりに針を刺して細胞を採ることを細胞診、組織を採ることを組織診（針生検、マンモトーム生検、切除生検）といいます。この細胞診、組織診で得られた標本を顕微鏡で見て、がん細胞があればがん診断されます。レントゲン写真や、CT、あるいは血液検査では、がんを疑うことはできますが、確定診断はできません。これは乳がんに限ったことではなく、胃がんや大腸がんであれば、内視鏡で組織診を行って診断します。ただし、身体の中の病変の組織を採ることはなかなか困難で、やむなく画像所見だけで診断せざるを得ない場合もあります。そういう意味で、乳がんは体表にあるので容易に細胞診や組織診ができるため、診断しやすいがんと言えるでしょう。

さて、病理は病気の診断ばかりではありません。治療方針の決定にも大きく影響します。乳がんの治療方針を決定する項目には、①年齢、②閉経の有無、③腫瘍の形態的特徴（組織型）、④腫瘍の大きさ、⑤リンパ節転移の有無、⑥遠隔転移の有無、⑦ホルモン受容体の有無、⑧HER2 受容体の有無、⑨脈管侵襲の有無、⑩組織学的悪性度、⑪合併症の有無などです。これらのうち、下線を引いた項目は病理検査で判断します。⑨脈管侵襲とは、顕微鏡で見たときに血管やリンパ管の中に癌細胞がみえるかどうかをみるもので、陽性であれば転移の可能性ありと判断します。⑩組織学的悪性度とは、がん細胞の形態から質の悪さを判断するもので、見た目の悪い細胞が多いがんは再発率が高いことが知られています。また、ご存じのように、ホルモン受容体やHER2 受容体の有無は、薬物療法の決定に大きな影響を及ぼすものです。ちなみに、⑥の遠隔転移の診断はCTなどの画像診断で行います。

このように、乳がんの治療には病理診断は欠かせません。そして、その結果は患者さんごとに違うため、治療方針も患者さんごとに違うことになります。

このような、とても重要な役割を担っているのが病理医ですが、病理医が診断するのは乳がんだけではありません。全身のあらゆる疾患を熟知していなければなりませんし、毎日数多くの標本が採取され、病理医の元に届けられ超多忙な毎日を送っています。しかし、全国的に病理医はとても少なく、それがまた忙しさに拍車をかけています。幸い当院には2名の病理医がおりますが、病理医が一人もない病院はざらにあります。

このように、病理医無くして皆さんの治療はできないと言っても過言ではありません。表向き、主治医だけが診療しているように見えますが、病理医の他にも放射線科医、他科の医師、そして、看護師はもちろん、薬剤師、検査技師、栄養士、ソーシャルワーカーなどなど、言わば縁の下の力持ちとして多くの職種の方々がみなさんに関わっているのです。

～連絡窓口～

大崎市民病院 地域医療連携室がん相談担当 ☎ 0229-23-3311